



いちごの季節はもうすぐ…従来いちご状血管腫とも呼ばれていた「赤いあざ」の代表**乳児血管腫**についてのお話です。

## 乳児血管腫（別名：いちご状血管腫）とは？

乳児血管腫とは、果物の「いちご」のような見た目から、従来いちご状血管腫とも呼ばれていた良性的な血管腫です。生まれて数週で薄い赤色の湿疹のような赤あざで気づかれることが多く、徐々に赤みが濃くなり盛り上がっていきます。毛細血管が集まって膨らむことで、赤く盛り上がるのが特徴となっています。生後6～12か月ごろに増大のピークを迎え、1～2歳ごろから徐々に小さく、色も薄くなっていきます。小学校入学前後の年齢になると、多くの乳児血管腫は消退しますが、消退後も凹凸や色ムラ、しこりやしワ、赤みなどの「あと」が残ることがあります。以前は様子を見る・経過観察という対応を取られることが多かったのですが、現在はレーザーや内服治療を行うことで消退後の「あと」を減らすことができます。



### ◆ 乳児血管腫の特徴

乳児血管腫は、生後数週間から目立ち始め、6～12ヶ月頃に最も大きくなります。その後、5～7歳ごろまでに9割以上が自然に小さくなります。

#### ◆ どのような症状？

- ・盛り上がった赤いあざです。
- ・皮膚の深い部分では青みがかって見えることもあります。
- ・通常は痛みません。



#### ◆ できる場所

- ・頭や顔、首に多く見られます。
- ・体のどこにでもできる可能性があります。
- ・1ヶ所だけでなく、複数できることもあります。

### ◆ 自然経過と注意点

- ・生後1～3か月頃に急に大きくなることが多い
- ・生後6か月頃までが最も成長しやすい時期
- ・1歳を過ぎると徐々に小さくなるが多い
- ・5～7歳頃には自然に目立たなくなることも多い

症状が進む長スピードが速いため、保護者の方が驚くこともありますが自然に小さくなるケースも多いです。



段階	時期	特徴
発生期	生後数日～数週間	生まれた時は目立たず、徐々に赤みが出現する
増殖期	生後6ヶ月～1年	急速に大きくなり、盛り上がる
退縮期	1歳以降から5～7歳まで	徐々に小さくなり、赤みが薄くなる

### ◆ 治療について

自然に治ることも多いですが、血管腫の場所や大きさによっては治療が必要です。

#### 【治療が必要な場合】

- ・視力や呼吸など、体の機能に影響する可能性のある部位。
- ・出血したり、ただれたりしやすい場合。
- ・急速に大きくなっている場合。
- ・跡が残りにやすい部位の場合。

#### 【治療方法】薬での治療（内服薬、外用薬）やレーザー治療などがあります。

- ・治療は、お子さんの状態に合わせて医師が判断します。
- ※当院からは斗南病院の形成外科を紹介させていただくことが多いです。



#### 【治療は次のような方法があります。】

- ・βブロッカー内服（プロプラノロール/ヘマジオンシロップ®）  
現在もっとも一般的な治療。多くの症例で効果が期待できます。
- ・外用薬（βブロッカー外用）
- ・レーザー治療  
色味や表面の改善に使われることがあります。



毛細血管奇形例のレーザー治療

治療の必要性は、血管腫の大きさ・場所・成長スピードによって異なります。

#### 【経過観察が可能なケース】

以下のような場合は、自然治癒を待つ経過観察が可能と考えられます。

- ・体の目立たない部分に発生している病変が小さい（例：直径5mm未満）
- ・潰瘍化の危険性が低い
- ・機能的な障害がない

気になる症状があるときは医師にご相談ください

公式ライン・Instagramお友達募集中です！！

QRコードで追加 もしくは ラインID  
そらいろこどもクリニックで検索！！



ID : 713kovcu

## お知らせ

ご卒業のみなさん、おめでとうございます！！  
打ち忘れていたワクチンありませんか？  
今一度、母子手帳をご確認ください。

